

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2018年11月14日

【四半期会計期間】 第16期第3四半期(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

【会社名】 ナブテスコ株式会社

【英訳名】 Nabtesco Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役 寺本 克弘

【本店の所在の場所】 東京都千代田区平河町二丁目7番9号

【電話番号】 03-5213-1134

【事務連絡者氏名】 コーポレート・コミュニケーション部長 黒須 昭仁

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区平河町二丁目7番9号

【電話番号】 03-5213-1134

【事務連絡者氏名】 コーポレート・コミュニケーション部長 黒須 昭仁

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第15期 第3四半期 連結累計期間	第16期 第3四半期 連結累計期間	第15期
会計期間		自 2017年1月1日 至 2017年9月30日	自 2018年1月1日 至 2018年9月30日	自 2017年1月1日 至 2017年12月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	202,809 (69,450)	210,843 (68,288)	282,422
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	26,110	20,234	34,907
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	18,809 (6,313)	13,253 (5,367)	25,146
四半期(当期)利益	(百万円)	19,778	14,593	26,569
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	20,887	13,726	27,761
四半期(当期)包括利益	(百万円)	21,968	14,727	29,464
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	160,567	172,873	167,537
資産合計	(百万円)	289,321	310,230	301,557
基本的1株当たり 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(円)	152.44 (51.22)	106.92 (43.29)	203.85
希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益	(円)	152.23	106.81	203.48
親会社所有者帰属持分比率	(%)	55.5	55.7	55.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	15,588	16,949	23,071
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	16,633	17,110	20,186
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	881	6,442	950
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	40,034	37,156	44,121

- (注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2 表示単位未満を四捨五入して表示しています。
3 売上高には、消費税等は含まれていません。
4 上記指標は、国際会計基準(以下、「IFRS」という。)に基づき作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいて作成しています。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

(売上高・営業利益)

当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比8,034百万円(4.0%)増加し210,843百万円となり、営業利益は、同9,010百万円(41.7%)減少し12,605百万円となりました。売上高営業利益率は6.0%となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

コンポーネントソリューション事業

コンポーネントソリューション事業の売上高は、前年同期比6,297百万円(7.7%)増加し87,746百万円、営業利益は、同91百万円(0.6%)増加し15,101百万円となりました。

精密減速機は、生産設備の自動化・省人化ニーズにより堅調に推移するも、自動車向け設備投資等の延期により、売上高は前年同期比減収となりました。油圧機器は、中国市場や新興国における建設機械需要が引き続き高い状態にあり、売上高は前年同期比増収となりました。

トランスポートソリューション事業

トランスポートソリューション事業の売上高は、前年同期比802百万円(1.4%)減少し56,926百万円、営業損失は、連結子会社OVALO GmbHに係るのれんの減損損失5,248百万円等により1,374百万円となりました。

鉄道車両用機器は、国内向けの減少を中国地下鉄向けの増加で補い、売上高は前年同期比横ばいとなりました。航空機器は、防衛省向けで減少しており、売上高は前年同期比減収となりました。商用車用機器は、堅調な国内市場向けと東南アジア市場の回復により、売上高は前年同期比増収となりました。船用機器は、回復の兆しはあるものの、海運・造船市況の不透明感が続いており、売上高は前年同期比横ばいとなりました。

アクセシビリティソリューション事業

アクセシビリティソリューション事業の売上高は、前年同期比1,755百万円(3.4%)増加し53,803百万円、営業利益は、同450百万円(14.1%)減少し2,734百万円となりました。

自動ドア事業は、堅調に推移し、売上高は前年同期比増収となりました。

その他

その他の売上高は、前年同期比784百万円(6.8%)増加し12,369百万円、営業利益は、同584百万円(49.0%)増加し1,776百万円となりました。

包装機は、国内外食品市場向けが堅調に推移し、売上高は前年同期比増収となりました。

(税引前四半期利益)

金融収益は542百万円、金融費用は、主に為替差損の発生により767百万円となりました。持分法による投資利益は、当社グループの持分法適用関連会社が実施した新株式発行及び自己株式の処分等により、当該持分法適用関連会社に対する持分比率が減少した一方、純資産額が著しく増加したこと等により、前年同期比3,698百万円(89.0%)増加し7,854百万円となりました。その結果、税引前四半期利益は20,234百万円と前年同期比5,876百万円(22.5%)の減益となりました。

(親会社の所有者に帰属する四半期利益)

以上の結果、法人所得税費用5,641百万円及び非支配持分に帰属する四半期利益1,340百万円を差引いた親会社の所有者に帰属する四半期利益は、13,253百万円と前年同期比5,556百万円(29.5%)の減益となりました。

また、基本的1株当たり四半期利益は前年同期比45.52円減少し、106.92円となりました。

(2) 財政状態の分析

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2017年12月31日)	当第3四半期 連結会計期間末 (2018年9月30日)	増減額
資産	301,557	310,230	8,672
負債	124,556	127,216	2,661
資本	177,002	183,013	6,012

資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は161,053百万円、非流動資産は149,176百万円であり、その結果、資産合計は310,230百万円と前連結会計年度末比8,672百万円の増加となりました。主な増加要因は、棚卸資産の増加8,818百万円、有形固定資産の増加8,560百万円、及び持分法で会計処理されている投資の増加8,864百万円です。主な減少要因は、現金及び現金同等物の減少6,965百万円、営業債権の減少9,042百万円、及びのれんの減少5,374百万円です。

負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は100,108百万円、非流動負債は27,109百万円であり、その結果、負債合計は127,216百万円と前連結会計年度末比2,661百万円の増加となりました。主な増加要因は、社債及び借入金金の増加2,972百万円です。

資本

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は183,013百万円となりました。親会社の所有者に帰属する持分合計は172,873百万円と前連結会計年度末比5,337百万円の増加となりました。主な増加要因は、親会社の所有者に帰属する四半期利益13,253百万円に伴う利益剰余金の増加です。一方、主な減少要因は、配当による利益剰余金の減少9,193百万円です。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

(単位：百万円)

	前第3四半期 連結累計期間 自 2017年1月1日 至 2017年9月30日	当第3四半期 連結累計期間 自 2018年1月1日 至 2018年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,588	16,949
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,633	17,110
フリーキャッシュ・フロー	1,044	162
財務活動によるキャッシュ・フロー	881	6,442

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末比6,965百万円減少し、37,156百万円となりました。これは営業活動により獲得した資金16,949百万円を主に設備投資、配当金の支払に充てた結果です。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは16,949百万円の資金の増加となりました。主な増加要因は、四半期利益、及び営業債権の減少によるものです。一方、主な減少要因は、棚卸資産の増加及び法人所得税の支払によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは17,110百万円の資金の減少となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出です。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは6,442百万円の資金の減少となりました。主な増加要因は、借入れによる収入です。一方、主な減少要因は、配当金の支払です。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は7,778百万円です。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2018年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2018年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	125,133,799	125,133,799	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株です。
計	125,133,799	125,133,799	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2018年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年9月30日	-	125,133,799	-	10,000	-	26,274

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

2018年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 878,300 (相互保有株式) 普通株式 20,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 124,132,300	1,241,323	-
単元未満株式	普通株式 102,699	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	125,133,799	-	-
総株主の議決権	-	1,241,323	-

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式55株が含まれており、また相互保有株式が次のとおり含まれています。

大力鉄工株式会社 80株

2 「完全議決権株式(その他)」欄には、「株式給付信託(BBT=Board Benefit Trust)」(以下、「株式給付信託(BBT)」という。)制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式275,600株(議決権2,756個)及び証券保管振替機構名義の株式6,000株(議決権60個)が含まれています。なお、当該議決権2,756個は、議決権不行使となっています。

【自己株式等】

2018年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ナブテスコ株式会社	東京都千代田区 平河町二丁目7-9	878,300	-	878,300	0.70
(相互保有株式) 旭光電機株式会社	神戸市中央区 元町通五丁目7-20	15,000	-	15,000	0.01
(相互保有株式) 大力鉄工株式会社	神戸市東灘区 田中町四丁目9-2	5,500	-	5,500	0.00
計	-	898,800	-	898,800	0.72

(注) 上記の所有株式数には、「株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式275,600株は含まれていません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)第1条の2に定める「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(以下、「IAS第34号」という。)に準拠して作成しています。

(2) 要約四半期連結財務諸表は、百万円未満を四捨五入して記載しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2018年7月1日から2018年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年1月1日から2018年9月30日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けています。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		44,121	37,156
営業債権		76,874	67,832
契約資産		-	1,616
その他の債権		1,216	1,691
棚卸資産		40,298	49,117
その他の金融資産	11	190	259
その他の流動資産		2,996	3,382
流動資産合計		165,695	161,053
非流動資産			
有形固定資産		70,700	79,260
無形資産		5,850	5,215
のれん	7	21,310	15,936
投資不動産		5,404	5,390
持分法で会計処理されている投資		20,184	29,048
その他の金融資産	11	8,547	10,401
繰延税金資産		1,633	1,820
その他の非流動資産		2,236	2,107
非流動資産合計		135,863	149,176
資産合計		301,557	310,230

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務		57,148	50,130
契約負債		-	6,808
社債及び借入金	9,11	16,365	19,377
その他の債務		12,492	11,811
未払法人所得税		4,550	2,659
引当金		732	990
その他の金融負債	11	7	22
その他の流動負債		5,641	8,310
流動負債合計		96,934	100,108
非流動負債			
社債及び借入金	9,11	11,355	11,315
退職給付に係る負債		9,339	9,214
繰延税金負債		4,801	5,096
その他の非流動負債		2,127	1,484
非流動負債合計		27,621	27,109
負債合計		124,556	127,216
資本			
資本金		10,000	10,000
資本剰余金		14,956	15,093
利益剰余金		143,349	147,401
自己株式		3,600	2,902
その他の資本の構成要素		2,831	3,282
親会社の所有者に帰属する持分合計		167,537	172,873
非支配持分		9,465	10,140
資本合計		177,002	183,013
負債及び資本合計		301,557	310,230

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
売上高	5,6	202,809	210,843
売上原価		144,634	153,940
売上総利益		58,175	56,903
その他の収益		612	1,014
販売費及び一般管理費		36,493	39,626
その他の費用	7	679	5,686
営業利益	5	21,615	12,605
金融収益		420	542
金融費用		81	767
持分法による投資利益		4,156	7,854
税引前四半期利益		26,110	20,234
法人所得税費用		6,331	5,641
四半期利益		19,778	14,593
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		18,809	13,253
非支配持分		969	1,340
四半期利益		19,778	14,593
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	10	152.44	106.92
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	10	152.23	106.81

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
売上高		69,450	68,288
売上原価		49,469	49,348
売上総利益		19,982	18,940
その他の収益		256	121
販売費及び一般管理費		12,166	12,755
その他の費用		218	88
営業利益		7,854	6,218
金融収益		542	129
金融費用		31	32
持分法による投資利益		751	880
税引前四半期利益		9,116	7,196
法人所得税費用		2,370	1,395
四半期利益		6,746	5,801
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		6,313	5,367
非支配持分		434	434
四半期利益		6,746	5,801
1株当たり四半期利益			
基本的1株当たり四半期利益(円)	10	51.22	43.29
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	10	51.15	43.25

(3) 【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
四半期利益		19,778	14,593
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の純変動		530	182
持分法適用会社におけるその他の 包括利益に対する持分		0	973
純損益に振り替えられることのない 項目合計		529	1,155
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		1,661	1,020
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計		1,661	1,020
税引後その他の包括利益合計		2,190	135
四半期包括利益合計		21,968	14,727
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		20,887	13,726
非支配持分		1,081	1,001
四半期包括利益合計		21,968	14,727

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)
四半期利益		6,746	5,801
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の純変動		125	124
持分法適用会社におけるその他の 包括利益に対する持分		0	158
純損益に振り替えられることのない 項目合計		125	34
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		836	1,269
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計		836	1,269
税引後その他の包括利益合計		961	1,235
四半期包括利益合計		7,707	7,036

四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		7,103	6,646
非支配持分		605	389
四半期包括利益合計		7,707	7,036

(4) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

(単位：百万円)

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
						在外営業活動体 の換算差額	公正価値の変動 による評価差額
2017年1月1日残高		10,000	14,703	125,493	2,649	2,788	3,169
四半期利益		-	-	18,809	-	-	-
その他の包括利益		-	-	-	-	1,559	540
四半期包括利益合計		-	-	18,809	-	1,559	540
自己株式の取得及び処分等	8	-	-	4	948	-	-
非支配持分の取得及び処分等		-	-	-	-	-	-
配当金		-	-	7,452	-	-	-
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		-	-	21	-	-	-
株式報酬取引		-	154	-	-	-	-
所有者との取引額等合計		-	154	7,476	948	-	-
2017年9月30日残高		10,000	14,857	136,826	3,597	1,229	3,710

	注記 番号	その他の資本の構成要素		親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
		確定給付負債 (資産)の純額の 再測定	合計			
2017年1月1日残高		-	382	147,929	7,974	155,904
四半期利益		-	-	18,809	969	19,778
その他の包括利益		21	2,078	2,078	112	2,190
四半期包括利益合計		21	2,078	20,887	1,081	21,968
自己株式の取得及び処分等	8	-	-	952	-	952
非支配持分の取得及び処分等		-	-	-	39	39
配当金		-	-	7,452	264	7,715
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		21	21	-	-	-
株式報酬取引		-	-	154	-	154
所有者との取引額等合計		21	21	8,250	224	8,474
2017年9月30日残高		-	2,481	160,567	8,831	169,398

当第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

(単位:百万円)

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
						在外営業活動体 の換算差額	公正価値の変動 による評価差額
2018年1月1日残高		10,000	14,956	143,349	3,600	773	3,604
四半期利益		-	-	13,253	-	-	-
その他の包括利益		-	-	-	-	680	1,131
四半期包括利益合計		-	-	13,253	-	680	1,131
自己株式の取得及び処分等		-	-	30	201	-	-
配当金	8	-	-	9,193	-	-	-
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		-	-	23	-	-	-
株式報酬取引		-	137	-	-	-	-
その他		-	-	-	496	-	-
所有者との取引額等合計		-	137	9,200	697	-	-
2018年9月30日残高		10,000	15,093	147,401	2,902	1,453	4,734

	注記 番号	その他の資本の構成要素		親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
		確定給付負債 (資産)の純額の 再測定	合計			
2018年1月1日残高		-	2,831	167,537	9,465	177,002
四半期利益		-	-	13,253	1,340	14,593
その他の包括利益		23	473	473	338	135
四半期包括利益合計		23	473	13,726	1,001	14,727
自己株式の取得及び処分等		-	-	171	-	171
配当金	8	-	-	9,193	326	9,519
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		23	23	-	-	-
株式報酬取引		-	-	137	-	137
その他		-	-	496	-	496
所有者との取引額等合計		23	23	8,389	326	8,716
2018年9月30日残高		-	3,282	172,873	10,140	183,013

(5) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期利益		19,778	14,593
減価償却費及び償却費		6,240	7,464
減損損失	7	-	5,248
退職給付に係る資産及び負債の増減額		156	140
受取利息及び受取配当金		123	181
支払利息		81	84
持分法による投資損益(は益)		4,156	7,854
固定資産除売却損益(は益)		174	119
法人所得税費用		6,331	5,641
営業債権の増減額(は増加)		2,706	8,034
棚卸資産の増減額(は増加)		6,319	9,420
営業債務の増減額(は減少)		5,047	861
その他		64	358
小計		24,440	23,365
利息及び配当金の受取額		606	689
利息の支払額		145	73
法人所得税の支払額		9,312	7,032
営業活動によるキャッシュ・フロー		15,588	16,949
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の増減額(は増加)		0	73
有形固定資産の取得による支出		7,752	15,684
有形固定資産の売却による収入		53	91
無形資産の取得による支出		564	532
連結範囲の変更を伴う子会社の取得による支出		8,203	-
新株予約権の取得による支出		-	626
その他		167	286
投資活動によるキャッシュ・フロー		16,633	17,110
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(は減少)		7,292	3,097
長期借入れによる収入		460	131
長期借入金の返済		124	191
自己株式純増減額(は減少)		985	18
配当金の支払額	8	7,261	9,171
非支配持分への配当金の支払額		264	326
財務活動によるキャッシュ・フロー		881	6,442
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		1,926	6,604
現金及び現金同等物の期首残高		41,780	44,121
現金及び現金同等物に係る換算差額		180	361
現金及び現金同等物の四半期末残高		40,034	37,156

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

ナブテスコ株式会社（以下、「当社」という。）は日本に所在する企業です。当社の要約四半期連結財務諸表は2018年9月30日を期末日とし、当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）、並びに関連会社に対する持分により構成されます。当社グループの主な事業内容は「コンポーネントソリューション事業」、「トランスポートソリューション事業」、「アクセシビリティソリューション事業」です。詳細は「注記5. 事業セグメント」に記載しています。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

本要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に定める「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しています。

本要約四半期連結財務諸表は、2018年11月14日に当社取締役会によって承認されています。

(2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、下記の「注記3. 重要な会計方針」で記載されているとおり、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成されています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は当社の機能通貨である日本円を表示通貨としています。

3. 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同様です。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を用いて算定しています。

（IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用）

当社グループは、第1四半期連結会計期間よりIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用しています。IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

IFRS第15号の適用に伴い、下記の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しています。

- ステップ1：顧客との契約を識別する
- ステップ2：契約における履行義務を識別する
- ステップ3：取引価格を算定する
- ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する
- ステップ5：企業が履行義務の充足時に収益を認識する

一時点で充足される履行義務

当社グループは、産業用ロボット部品、建設機械用機器、鉄道車両用ブレーキ装置・自動扉装置、航空機部品、自動車用ブレーキ装置・駆動制御装置、船用制御装置、建物及び一般産業用自動扉装置、プラットフォーム安全設備等の製造販売を主な事業としています。これらの製品の販売については、多くの場合、製品の引渡時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、主として当該製品の引渡時点で収益を認識しています。また、収益は、顧客との契約において約束された対価から、値引き、リベート及び返品等を控除した金額で測定しています。

一定期間にわたり充足される履行義務

当社グループは、次の要件のいずれかに該当する場合は、製品又は役務に対する支配が一定期間にわたり移転するため、一定期間にわたり履行義務を充足し収益を認識しています。

- a 顧客が履行によって提供される便益を、履行するにつれて同時に受け取って消費する。
- b 履行が、資産を創出するか又は増価させ、顧客が当該資産の創出又は増価について支配する。
- c 履行が、他に転用できる資産を創出せず、かつ現在までに完了した履行に対する支払を受ける強制可能な権利を有している。

当社グループにおいて、一定の期間にわたり充足される履行義務に関する収益としては、プラットフォーム安全設備等の履行義務があります。プラットフォーム安全設備等の収益は進捗度を見積り認識しています。進捗度は、見積原価総額に対する実際原価の割合で算出しています（インプット法）。

本基準の適用に伴い、従来、流動資産の営業債権に含めていました契約資産1,616百万円、流動負債の営業債務に含めていました契約負債6,808百万円を区分して表示しています。なお、売上高、営業利益及び四半期利益に与える影響はありません。

4. 重要な会計上の判断、見積り及び仮定

IFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を設定することが義務付けられています。実際の結果はこれらの見積りとは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しています。これらの見積りの見直しによる影響は、当該見積りを見直した期間及び将来の期間において認識しています。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様です。

5. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、ビジネスモデルの類似性に基づき、事業セグメントを集約した上で、「コンポーネントソリューション事業」、「トランスポートソリューション事業」、「アクセシビリティソリューション事業」の3報告セグメントに区分しています。

各報告セグメントの区分に属する主な事業内容は以下のとおりです。

事業区分	主な事業内容
コンポーネントソリューション事業	産業用ロボット部品、建設機械用機器等及びこれらの部品の設計、製造、販売、保守、修理
トランスポートソリューション事業	鉄道車両用ブレーキ装置・自動扉装置、航空機部品、自動車用ブレーキ装置・駆動制御装置、船用制御装置等及びこれらの部品の設計、製造、販売、保守、修理
アクセシビリティソリューション事業	建物及び一般産業用自動扉装置、プラットホーム安全設備等及びこれらの部品の設計、製造、販売、据付、保守、修理

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの会計方針は、「注記3. 重要な会計方針」で記載している当社グループの会計方針と同じです。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

前第3四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	要約四半期 連結損益 計算書計上額
	コンポー ネント	トランス ポート	アクセシ ビリティ	計				
売上高								
外部売上高	81,449	57,728	52,048	191,225	11,584	202,809	-	202,809
セグメント間売上高	1,500	294	2	1,796	333	2,129	2,129	-
売上高合計	82,949	58,022	52,051	193,021	11,917	204,938	2,129	202,809
セグメント利益 (営業利益)	15,011	6,924	3,183	25,118	1,192	26,310	4,695	21,615
金融収益				-				420
金融費用				-				81
持分法による投資利益				-				4,156
税引前四半期利益				-				26,110

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、包装機械、立体モデル作成装置、真空機械、工作機械等及びこれらの部品の設計、製造販売、保守、修理を行う事業で構成されています。

2 売上高の調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

3 セグメント利益(営業利益)の調整額は、各セグメントに配賦されない全社損益等です。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	要約四半期 連結損益 計算書計上額
	コンポー ネント	トランス ポート	アクセシ ビリティ	計				
売上高								
外部売上高	87,746	56,926	53,803	198,474	12,369	210,843	-	210,843
セグメント間売上高	1,802	401	6	2,209	210	2,419	2,419	-
売上高合計	89,548	57,327	53,809	200,684	12,579	213,262	2,419	210,843
セグメント利益 又は損失() (営業利益又は損失)	15,101	1,374	2,734	16,461	1,776	18,237	5,632	12,605
金融収益	-							542
金融費用	-							767
持分法による投資利益	-							7,854
税引前四半期利益	-							20,234

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、包装機械、立体モデル作成装置、工作機械等及びこれらの部品の設計、製造販売、保守、修理を行う事業で構成されています。

2 売上高の調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

3 セグメント利益又は損失(営業利益又は損失)の調整額は、各セグメントに配賦されない全社損益等です。

6. 顧客との契約から生じる収益

当社グループの事業は、コンポーネントソリューション事業、トランスポートソリューション事業、アクセシビリティソリューション事業及びその他の事業により構成されており、当社の取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループでは、これらの事業を通じて得られる収益を売上高として表示しています。また売上高は、主要な製品別に分解しています。これらの分解した売上高と「注記5. 事業セグメント」で記載しているセグメント別の売上高との関連は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

セグメントの名称	主要な製品	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
コンポーネント ソリューション事業	精密減速機	48,614
	油圧機器	39,072
	その他	61
	小計	87,746
トランスポート ソリューション事業	鉄道車両用機器	21,499
	航空機器	13,025
	商用車用機器	10,747
	舶用機器	7,162
	その他	4,493
小計	56,926	
アクセシビリティ ソリューション事業	自動ドア	53,803
	小計	53,803
その他	包装機	10,802
	その他	1,567
	小計	12,369
合計		210,843

(注) 金額は、外部売上高で表示しています。

7. 非金融資産の減損

前第3四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

第2四半期連結会計期間末時点において、当社の連結子会社であるOVALO GmbHの事業計画を、事業環境の変化を考慮し見直した結果、同社の業績は当初策定していた計画を下回って推移する見通しとなりました。同社に係る資金生成単位に配分されたのれんについて減損テストを実施したところ、割引後キャッシュ・フローである回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、当該のれんに係る減損損失を認識しています。

当該減損損失は、要約四半期連結損益計算書の「その他の費用」に含まれています。当該減損損失は、トランスポートソリューション事業において認識しています。回収可能価額は使用価値により測定しています(税引前の割引率：17.7%)。

(単位：百万円)

資金生成単位	報告セグメント	資産の種類	減損損失の金額
OVALOグループ	トランスポート	のれん	5,248
		合計	5,248

8. 配当金

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における配当金の金額は以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年3月28日 定時株主総会	3,229	26	2016年12月31日	2017年3月29日
2017年7月31日 取締役会	4,223	34	2017年6月30日	2017年9月4日

(注) 2017年7月31日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)に係るみずほ信託銀行株式会社の信託口が保有する当社株式に対する配当金10百万円を含んでいます。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年3月27日 定時株主総会	4,720	38	2017年12月31日	2018年3月28日
2018年7月31日 取締役会	4,473	36	2018年6月30日	2018年8月31日

(注) 2018年3月27日定時株主総会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)に係るみずほ信託銀行株式会社の信託口が保有する当社株式に対する配当金11百万円を含んでいます。

(注) 2018年7月31日取締役会決議による配当金の総額には、株式給付信託(BBT)に係るみずほ信託銀行株式会社の信託口が保有する当社株式に対する配当金10百万円を含んでいます。

9. 社債

前第3四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)

社債の発行及び償還はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

社債の発行及び償還はありません。

10. 1 株当たり四半期利益

(1) 基本的 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎

基本的 1 株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりです。

		前第 3 四半期連結累計期間 (自 2017年 1月 1日 至 2017年 9月 30日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 1月 1日 至 2018年 9月 30日)
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	(百万円)	18,809	13,253
普通株式の加重平均株式数	(千株)	123,389	123,955
基本的 1 株当たり四半期利益	(円)	152.44	106.92

		前第 3 四半期連結会計期間 (自 2017年 7月 1日 至 2017年 9月 30日)	当第 3 四半期連結会計期間 (自 2018年 7月 1日 至 2018年 9月 30日)
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	(百万円)	6,313	5,367
普通株式の加重平均株式数	(千株)	123,246	123,980
基本的 1 株当たり四半期利益	(円)	51.22	43.29

(2) 希薄化後 1 株当たり四半期利益の算定上の基礎

希薄化後 1 株当たり四半期利益及びその算定上の基礎は、以下のとおりです。

		前第 3 四半期連結累計期間 (自 2017年 1月 1日 至 2017年 9月 30日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2018年 1月 1日 至 2018年 9月 30日)
親会社の所有者に帰属する 希薄化後四半期利益	(百万円)	18,809	13,253
普通株式の加重平均株式数	(千株)	123,389	123,955
新株予約権方式の ストック・オプションの影響	(千株)	166	125
普通株式の 希薄化後加重平均株式数	(千株)	123,556	124,079
希薄化後 1 株当たり四半期利益	(円)	152.23	106.81

		前第 3 四半期連結会計期間 (自 2017年 7月 1日 至 2017年 9月 30日)	当第 3 四半期連結会計期間 (自 2018年 7月 1日 至 2018年 9月 30日)
親会社の所有者に帰属する 希薄化後四半期利益	(百万円)	6,313	5,367
普通株式の加重平均株式数	(千株)	123,246	123,980
新株予約権方式の ストック・オプションの影響	(千株)	166	125
普通株式の 希薄化後加重平均株式数	(千株)	123,413	124,104
希薄化後 1 株当たり四半期利益	(円)	51.15	43.25

11. 公正価値

(1) 公正価値の測定方法

償却原価で測定する金融資産

a その他の金融資産

その他の金融資産の公正価値については、主に、一定の期間ごとに区分して、信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値に基づいて評価しています。

純損益を通じて公正価値で測定する金融資産

a ゴルフ会員権

ゴルフ会員権の公正価値については、相場価格等によっています。なお、ゴルフ会員権は、要約四半期連結財政状態計算書における「その他の金融資産」に含まれています。

b デリバティブ金融資産

新株予約権の公正価値については、市場価格、ヒストリカル・ボラティリティ等を考慮したモンテカルロ・シミュレーション等を用いて算定しています。為替予約の公正価値については、先物為替相場等に基づき算定しています。なお、デリバティブ金融資産は、要約四半期連結財政状態計算書における「その他の金融資産」に含まれています。

その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産

投資有価証券

主に株式で構成される資本性金融商品であり、上場株式については取引所の市場価格、非上場株式については類似会社の市場価格に基づく評価技法及び純資産価値に基づく評価技法等を用いて算定しています。なお、投資有価証券は、要約四半期連結財政状態計算書における「その他の金融資産」に含まれています。

償却原価で測定する金融負債

社債及び借入金

当社の発行する社債の公正価値は、市場価格に基づいて評価しています。借入金の公正価値については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定していません。

純損益を通じて公正価値で測定する金融負債

デリバティブ金融負債

為替予約の公正価値については、先物為替相場等に基づき算定しています。なお、デリバティブ金融負債は、要約四半期連結財政状態計算書における「その他の金融負債」に含まれています。

(2) 金融商品の分類ごとの帳簿価額と公正価値

金融資産及び金融負債の要約四半期連結財政状態計算書上の帳簿価額と公正価値は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2017年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間末 (2018年9月30日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
金融資産				
償却原価で測定する金融資産				
その他の金融資産	1,489	1,489	1,766	1,766
償却原価で測定する金融資産合計	1,489	1,489	1,766	1,766
純損益を通じて公正価値で測定する 金融資産				
ゴルフ会員権	150	150	149	149
デリバティブ金融資産	-	-	987	987
純損益を通じて公正価値で 測定する金融資産合計	150	150	1,136	1,136
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産				
投資有価証券	7,098	7,098	7,757	7,757
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産合計	7,098	7,098	7,757	7,757
金融資産合計	8,736	8,736	10,660	10,660
金融負債				
償却原価で測定する金融負債				
社債及び借入金	27,721	27,754	30,692	30,702
償却原価で測定する金融負債合計	27,721	27,754	30,692	30,702
純損益を通じて公正価値で測定する 金融負債				
デリバティブ金融負債	7	7	22	22
純損益を通じて公正価値で測定する 金融負債合計	7	7	22	22
金融負債合計	27,727	27,761	30,715	30,725

なお、当初認識時に、純損益を通じて公正価値で測定する金融資産及び金融負債として指定する取消不能な選択を行った金融資産及び金融負債は保有していません。償却原価で測定する金融資産である現金及び現金同等物、営業債権、その他の債権、営業債務、及びその他の債務については、短期間で決済されることから帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっているため、上表には含めていません。

(3) 公正価値ヒエラルキーのレベル別分類

金融資産及び金融負債に関する経常的な公正価値については、以下のとおり、測定・分析しています。これらの公正価値の金額は、用いられる評価技法へのインプット（入手可能な市場データ）に基づいて、3つの公正価値ヒエラルキー（レベル1～3）に区分されています。それぞれのレベルは、以下のように定義付けられています。

レベル1：活発に取引される市場で公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接、又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察不能なインプットを含む評価技法から算出された公正価値

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化が生じた日に認識していません。

経常的に公正価値で測定する金融資産及び金融負債の公正価値ヒエラルキーは以下のとおりです。

(単位：百万円)

前連結会計年度末 (2017年12月31日)	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	-	150	-	150
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	5,312	-	1,786	7,098
その他の金融負債				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	-	7	-	7

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末 (2018年9月30日)	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産	-	149	987	1,136
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	5,437	-	2,320	7,757
その他の金融負債				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債	-	22	-	22

「(2) 金融商品の分類ごとの帳簿価額と公正価値」で開示している、償却原価で測定する金融商品の公正価値ヒエラルキーは、社債についてはレベル2、その他のものについては主としてレベル3で区分しています。

前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間において、レベル1、2及び3の間の振替はありません。

なお、前連結会計年度末、当第3四半期連結会計期間末において、非経常的に公正価値で測定された重要な資産及び負債はありません。

(4) レベル3に区分される公正価値測定に関する情報

評価技法及びインプット

レベル3に区分されたその他の金融資産は、主として非上場株式と新株予約権です。非上場株式の公正価値は、類似会社の市場価格に基づく評価技法及び純資産価値に基づく評価技法等を用いて算定しています。新株予約権の公正価値は、市場価格、ヒストリカル・ボラティリティ等をインプットとして用いて、モンテカルロ・シミュレーション等により算定しています。

評価プロセス

レベル3の金融商品に係る公正価値の測定は、関連する社内規程に従い実施しています。公正価値の測定に際しては、対象となる金融商品の性質、特徴及びリスクを最も適切に反映できる評価技法及びインプットを用いています。

レベル3に区分される経常的な公正価値測定の感応度情報

経常的に公正価値で測定するレベル3に分類される金融商品の公正価値の測定に関する重要な観察可能でないインプットは、財務予測に基づいて算定したEBIT倍率、非流動性ディスカウント及びヒストリカル・ボラティリティ等です。公正価値はEBIT倍率、及びヒストリカル・ボラティリティの上昇（低下）により増加（減少）し、非流動性ディスカウントの上昇（低下）により減少（増加）します。

レベル3に分類される金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合の公正価値の増減は重要ではありません。

レベル3に分類された金融商品の期首残高から期末残高への調整表

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)
期首残高	1,920	1,786
利得及び損失合計	148	693
純損益 (注) 1	-	361
その他の包括利益 (注) 2	148	332
購入	-	878
売却	5	50
期末残高	2,062	3,306

(注) 1 純損益に認識した利得及び損失は、当第3四半期連結会計期間末に保有している金融商品にかかる未実現損益であり、要約四半期連結損益計算書上の「金融収益」に含まれています。

(注) 2 その他の包括利益に認識した利得及び損失は、要約四半期連結包括利益計算書上の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の純変動」に含まれています。

12. 企業結合

前第3四半期連結累計期間（自 2017年1月1日 至 2017年9月30日）

（OVALO GmbHの出資持分の取得）

当社は、2017年3月1日付でOVALO GmbH（以下、OVALO社）の出資持分100%を取得し、当社の連結子会社としました。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 OVALO GmbH

事業の内容 自動車産業向けの波動歯車機構減速機によるシステム製品の開発・製造・販売

企業結合の主な理由

当社は、欧州市場における競争基盤の強化、及び製品供給システムの基盤となるメカトロニクス分野の強化による"利益ある成長"を目指して、今回の買収を決定しました。

OVALO社の買収を通じて、同社が持つモーター、コントロールユニット一体製品の開発能力を活用することにより、当社製品のシステム化・メカトロニクス化が加速するものと確信しています。

また、OVALO社拠点には拡張余地があり、新たな欧州開発・生産拠点設立に活用することも将来的に検討し、欧州市場における競争基盤のさらなる強化を目指します。

被取得企業の支配の獲得方法

現金を対価とする出資持分の取得

取得日

2017年3月1日

取得する持分比率

100%

(2) 取得対価及びその内訳

現金	8,307 百万円
取得対価合計	8,307 百万円

(3) 取得関連費用

取得関連費用は、139百万円（うち80百万円は前連結会計年度に発生）であり、要約四半期連結損益計算書上、「販売費及び一般管理費」に含めています。

(4) 取得した債権

取得した債権の主な内訳は貸付金であり、その公正価値は1,428百万円、契約上の債権額は1,428百万円であり、回収不能と見込まれるものはありません。

(5) 取得した資産及び引き受けた負債

取得日に、取得した資産及び引き受けた負債の公正価値は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	金額
取得対価の公正価値 (注) 1	8,307
非支配持分 (注) 2	51
合計	8,357
流動資産(注) 3	2,412
非流動資産(注) 4	4,398
流動負債	3,358
非流動負債	1,110
のれん(注) 5	6,016
合計	8,357

- (注) 1 条件付対価はありません。
 2 非支配持分は、識別可能な被取得企業の純資産の公正価値に対する持分割合で測定しています。
 3 現金及び現金同等物142百万円が含まれています。
 4 無形資産には、被取得企業において認識されていなかった顧客関連資産2,321百万円（耐用年数3～8年）、技術資産407百万円（耐用年数7～20年）、その他無形資産582百万円（耐用年数8年）が含まれています。
 5 のれんは主に超過収益力を反映したものであり、税務上損金計上されません。

(6) 当社グループの業績に与える影響

取得日以降の損益情報及び企業結合が当第3四半期連結累計期間期首である2017年1月1日に行われたと仮定した場合の要約四半期連結財務諸表に与える影響の概算額は、重要性が乏しいため記載していません。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年1月1日 至 2018年9月30日）
 記載すべき事項はありません。

13. コミットメント

有形固定資産の取得に関する契約上確約している重要なコミットメントは以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2018年9月30日)
コミットメント	7,350	5,730

14. 後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

第16期(2018年1月1日から2018年12月31日まで)中間配当については、2018年7月31日開催の取締役会において、2018年6月30日現在の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

中間配当金の総額	4,473百万円
1株当たり中間配当金	36円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2018年8月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年11月14日

ナブテスコ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古山和則

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋田英明

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内田好久

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているナブテスコ株式会社の2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2018年7月1日から2018年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年9月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、ナブテスコ株式会社及び連結子会社の2018年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。